宮城山岳 通信 第31号

目　次

巻　頭　言　　千石信夫支部長・・・・・・・・・・・2頁

定例役員会報告(9月・11月・1月)　　事務局・・・・・・・・・・ 2～6頁

第6回山岳古道調査特別委員会 報告　　事務局・・・・・・・・・・・・ 6頁

宮城支部　山行報告
☆9月山行(月山)　　遠藤幸壽・・・・・・・・・7～8頁
☆第11回登山教室(北泉ヶ岳・泉ヶ岳)　　冨塚和衛・・・・・・・・・ 8～10頁
☆初冬山行(霊山)　　加藤知宏・・・・・・・・ 10～11頁

行事記録
☆第36回日本山岳会全国支部懇談会　　冨塚和衛・・・・・・・・11～13頁
☆2023年度 日本山岳会自然保護全国集会　　柴崎　徹・・・・・・・・13～14頁
☆令和5年度宮城支部晩餐会　　鳥山文蔵・・・・・・・・14～15頁

新入会員紹介　　事務局・・・・・・・・・15～16頁

今後の行事予定　　事務局・・・・・・・・・・・16頁

会員の皆様へ　　事務局・・・・・・・・・・・16頁

編　集　後　記　　会報・編集出版委員長・・・・16頁

巻　頭　言

支部長　千石　信夫

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、異常気象による猛暑が続き、そして世界的にも胸が痛むニュースに明け暮れました。そのような中でも、支部運営において、古道調査の踏査活動はほぼ終了し、山の天気ライブ授業の開催、海外トレッキング、そして山形支部との交流会、東北・北海道ブロック集会、全国支部懇談会、自然保護全国集会など、活発に交流できましたことは有意義だったと感じております。

元旦には恒例の泉ヶ岳に登り、山頂にて平穏な年となりますよう祈ってまいりました。残念ながら災害が発生し、翌日には航空機の事故と、新年早々災いの幕開けとなってしまいました。今後は早く復旧されることを祈るばかりです。

さて宮城支部では、年が明け何かと忙しくなる時期となってまいりました。次年度の事業計画、予算作成など、本部から立て続けに依頼が来ております。本部においても令和 6 年度の取り組みの検討に入っており、支部から本部への意見も求められております。

橋本しをり会長は、昨年の支部連絡会議において「“みんなの日本山岳会”を目指し、ヒマラヤ登山から高尾山ハイキングまで老若男女、高齢者から若者、そしてＬＧＢＴ、バックグランドこそ違え、山の魅力を経験したことがない人にも山の魅力を知ってもらうことが会の役目です」と話されております。そして今までの山岳会の価値観の再定義ということも発言されておりました。会長の意気込みに期待し、協力していきたいと思います。

宮城支部も課題はたくさんありますが、今年も仲間を増やし、ヒマラヤから里山まで幅広い活動を進め、“みんなの日本山岳会”として山の魅力を発信し活動していきましょう。さらには、女性会員の活躍にも期待したいところです。私は、日本山岳会の今までの良き伝統は残したうえで、新しい公益社団法人としての日本山岳会の価値観というものを考えていきたいと思っております。

今年も会員の皆さまと、全国ベースでの交流ができるように進め、様々な山でお会いできるよう企画していきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【役員会議事録】

■令和 5 年 9 月定例役員会

日　時：9 月 20 日(水)18：00～

場　所：仙台市シルバーセンター5F 会議室

出席者：千葉副支部長、冨塚、柴崎、草野、横山、遠藤、加藤、計 7 名

千石支部長が所用のため欠席、千葉副支部長より「猛暑が続き、体調管理には充分気を付けて事業を実施していきましょう」と挨拶があり、議事に入った。

《報告事項》

イ）総務・財務委員会からの報告(冨塚)

(1) 支部連絡会議の案内について

〇今後の支部連絡会議等の日程が本部から示された。第 1 回 9 月 21 日(ZOOM 会議)、第 2 回 12 月 2 日(京王プラザホテル〈晩餐会〉)、第 3 回 3 月 28 日(ZOOM 会議)、第 4 回 5 月 30 日(ZOOM 会議)、第 5 回 6 月 15 日(プラザエフ〈総会〉)。ほか事業計画・決算に関する説明会を 1 月に予定。

〇支部連絡会議の議題・資料について

9 月 21 日(ZOOM 会議)の議題(以下)説明

・財務状況の再確認

・収入確保の施策―会員数の維持、増加施策
・コスト縮減
・日本山岳会のアイデンティティの確認等

(2) 会員増と退会者減対策の回答票まとめ

支部事業委員会の松田宏也理事が取りまとめ役でアンケートを実施したもの。各支部の取組み等が一覧表になっているので、目を通してもらい、宮城支部活性化のための提案をお願いしたい。

(3) 2023 年度 役員連絡網について

各自に確認をお願いした。

(4) ビールパーティ実施結果について

サッポロビール仙台ビール園(名取市)で実施。参加者は 9 名。参加者の殆どが 7 月に実施したヨーロッパ・チロル地方トレッキングのメンバーで、思い出話や次回のリクエストなどで大盛り上がりとなった。

ロ) 山行集会委員会からの報告

(1) 初秋山行実施計画(月山)について

担当する遠藤山行集会委員から説明。

(2) 第 13 回親子登山教室(戸神山)の実施計画

山行集会委員長及び担当者とも欠席のため割愛。

ハ) 会報・編集出版委員会からの報告

(1) 宮城山岳通信第 30 号の刊行について

(2) 宮城山岳通信第 31 号の編集方針

上記の 2 件、会報・編集出版委員長が欠席のため割愛。

ニ) メディア委員会からの報告

○ツイッター原稿のお願いについて(加藤)

日本山岳会宮城支部では、2020 年から専用 X(旧 Twitter)アカウントを設け、運用している。月例山行の活動報告や宮城山岳・宮城山岳通信の発行、各種イベント情報の案内等をツイートすることで、登山や自然の魅力を発信し、日本山岳会宮城支部を広くＰＲしている。月例山行の活動について、簡単な活動報告及び写真を事務局経由で、メディア委員会に送ってもらいたい。

ニ) 他委員会からの報告

○柴崎自然保護委員会委員長より

10 月 21，22 日に高尾山を会場に「自然保護全国集会」が開催される。そこで「宮城県の山地および丘陵地における風力発電事業計画に対する公益社団法人日本山岳会宮城支部の見解」を発表する事になった。この件に関し、役員会の承認をいただきたい。(了承)

ホ) 山岳古道調査特別委員会からの報告

(1) 第 5 回山岳古道調査特別委員会の実施結果について

宮城支部が担当する 5 山岳古道については、ほぼスケジュール通りの進捗状況である旨報告。今後のスケジュールとして、12 月までに必要とする資料を各チーフが取りまとめて役員会に諮り、今年度中に本部に報告する予定である。今回配布したテンプレートについて意見等があれば、9 月末日まで冨塚宛てに。

(2) 全国山岳古道 ZOOM 会議参加の報告

各支部の進捗状況の報告があり、それによれば宮城支部の進捗状況は中庸である旨報告。

《審議事項》

○宮城支部個人情報保護管理規定(仮称)の策定について

千石支部長の意向を受け、宮城支部が把握する個人情報を公開するにあたり、関係法律を遵守すると共に、法に基づき個人情報の保護目的とする規定策定のタタキ台を示した。その案を審議した結果、策定することについて承認された。

※10 月定例役員会は案件なく休止した。

■令和 5 年 11 月定例役員会

日　時：11 月 15 日(水)18：00～

場　所：仙台市シルバーセンター5F 会議室

出席者：千石支部長、千葉、冨塚、佐藤、柴崎、草野、横山、遠藤、加藤、鳥山 計 10 名

《報告事項》

イ）総務・財務委員会からの報告(冨塚)

(1)支部連絡会議(ZOOM 会議)報告(千石)

9 月 21 日(木)午後 7 時から開かれ、①財務状況について、②支部アンケート結果から、③入会金の問題、④支出を減らす考えられる対策、⑤ＪＡＣは岳人のサロン！アイデンティティの問題などについて話し合った。

尚、③の入会金の問題について、審議事項として後で出席役員と話し合う。

この支部連絡会議の後に開かれた本部理事会で検討された対応策を冨塚より説明。

(2)会報の電子配信、入会金減額について

会報「山」の 10 月号から電子配信を試行し、会員の反応、意見を聞く。入会金は減額の方向で検討、来年の総会で決めたいとのこと。

(3)「山」10 月号データの送信について

本部事務局から支部へＰＤＦデータを送る。それを支部が会員向けにメール配信する方法。支部会員への電子配信が可能な支部は配信し、その結果を 3 月の支部連絡会議で報告する。

(4)全国支部懇談会参加報告

冨塚と八尾が参加(後記「行事記録」参照)。

(5) 支部連絡会＆晩餐会について

12 月２日(土)午前中に 12 月の支部連絡会を開催。午後から年次晩餐会。会場は新宿の京王プラザホテル。

(6) 支部晩餐会について

12 月 17 日(日)、ホテル白萩で開く。1 部は会員の山行報告会とし、2 部はオークションなどの晩餐会とする。最近入会された会員に参加してもらうよう働きかける。

(7)第 38 回全国支部懇談会及び関西支部設立 90 周年記念式典の案内

上記の懇親会及び式典が令和 7(2025)年 10 月 26 日(日)～27 日(月)、大阪ガーデンパレスで開催される。

(8)2023 年度役員連絡網について

出席役員で電話番号などを確認。

ロ）山行集会委員会からの報告

(1)9 月山行実施結果(草野)

7 頁の「山行報告」参照。

(2)第 13 回親子登山教室―10 月 15 日(千石)

参加者ゼロで中止。その代わりに臨時秋山山行として雁戸山を計画したが、残念ながら悪天候で中止とした。

(3) 第 11 回登山教室(冨塚)

11 月 19 日(日)北泉ヶ岳、泉ヶ岳で実施する。現在、一般参加者 2 名、会員 7 名の 9 名。

(4)初冬山行計画(加藤)

12 月 10 日(日)、福島の霊山で実施する。

ハ）会報・編集出版委員会からの報告(鳥山)

(1)「宮城山岳通信」第 30 号　9 月 7 日に発行

(2)「宮城山岳通信」第 31 号の編集方針

12 月の初冬山行及び支部晩餐会まで編集し、年内か年明けに発行すべく作業する。

ニ）自然保護委員会からの報告(柴崎)

(1)自然保護全国集会の開催について

10 月 21 日(土)、22 日(日)の 2 日間、東京の高尾山の麓で「人と森とのかかわり」というテーマで開かれた。初日のシンポジウムで宮城支部の高橋二義会員より“風力発電の現状”を報告、高評を得た。翌日は高尾山の猿投(さなげ)の森づくりを視察した(「行事報告」参照)。

(2)シンポジウム環境ＤＮＡモニタリング報告会参加報告(千石)

11 月 5 日(日)、中新田交流センターで開か

れ、50 人ほどが参加した。東北大学の近藤先生が研究している山岳生態系の報告があった。このモニタリングに日本山岳会も関わり、また宮城岳連からも 5 名の参加があった。

ホ）山岳古道調査特別委員会から報告（冨塚）

(1)全国山岳古道 ZOOM 会議参加報告

10 月 4 日(水)と 11 月 1 日(水)に ZOOM で会議があったが、あまり新しい話はなかった。ただ古道地図は、各支部から上がった地図を参考に本部の永田さんが手作りで作成する。

(2)第 6 回山岳古道調査特別委員会の開催予定について

年明けの 1 月 17 日(水)に開催、各担当から最終テンプレートを提出してもらい、確認して終了にしたい。年度内に本部へ上げる。

《審議事項》

〇東北大学山の会が創部 100 周年を迎える。宮城支部所属の会なので、何か祝意を表したい(千石)→柴崎会員に当たってもらう。

〇支部連絡会議で提案の入会金について

加藤：入会するとき、入会金で二の足を踏んだ。何で取られるのか不思議だった。

千葉：入会金を下げて、「準会員」をやめた方がいいのではないか。

佐藤：現在の日本山岳会に魅力がない。入会金を払う価値があるのか‥と思ってしまう。

鳥山：入会金もそうだが、入会するのに紹介者 2 名が必要で、何か現実離れしている。

意見を聞いた千石支部長は、本部に“入会金を下げ、準会員は廃止する”方向で提案することになった。

■令和 6 年 1 月定例役員会

日　時：1 月 17 日(水)18：00～

場　所：仙台市シルバーセンター5Ｆ会議室

出席者：千石支部長、千葉、冨塚、柴崎、横山、草野、佐藤、遠藤、加藤、鳥山

計 10 名

千石支部長より「今年もよろしくお願いします」と年頭の挨拶があり議事に入った。

《報告事項》

イ）総務・財務委員会からの報告

(1)支部連絡会議(12 月 2 日)報告(千石)

主に会員数の維持、増加対策として入会金の減額および準会員の見直し等。

(2)ＪＡＣ令和 6 年度の課題(千石)

長島常務理事から上記(1)同様の報告。

(3)2024 年度特別事業補助金の案内(冨塚)

宮城支部ではしばらく申請したことがない。

(3)ＪＡＣ第 13 回登山教室指導者養成講習会について(冨塚)

3 月 9(土)・10 日(日)に開催。宮城支部より松元会員が参加予定。

(5)令和 6 年度事業計画の提出(~~千石~~冨塚)

本部へ提出する宮城支部事業計画の説明。

(6)令和 6 年度支部予算書の提出(千石)

本部へ提出する宮城支部の予算説明。

(7)第 9 回、10 回理事会議事録(冨塚)

11 月 9 日開催の第 9 回、12 月 14 日開催の第 10 回理事会それぞれの議事録配布。

(8)第 37 回全国支部懇談会について(冨塚)

神奈川支部担当で 5 月 25 日(土)、26 日(日)に開催。会員の皆様に参加してもらいたい。

(9)財務関係の説明会(ZOOM 会議)結果(千石)

例年通り支部の決算、予算の作成依頼あり。

ロ）山行集会委員会からの報告

(1)第 11 回登山教室の実施結果(冨塚)

詳しくは後記の「山行報告」参照。

(2)初冬山行の実施結果(加藤)

詳しくは後記の「山行報告」参照。

(3)厳冬期山行実施計画について(千石)

2 月 4 日(日)に烏帽子スキー場から後烏帽

子岳をめざす。申込み締め切り 1 月 30 日。

ハ）会報・編集出版委員会からの報告（鳥山）

「宮城山岳通信」第 31 号の編集進捗状況と発行予定について説明。

ニ）他委員会からの報告

自然保護委員会の柴崎委員長より風力発電事業計画に対する活動で、宮城岳連と連携を深めていきたいとの話。また 4 年ぶりに開催されたＪＡＣ自然保護全国集会に高橋二義氏と参加した（詳しくは「行事記録」参照）。

ホ）山岳古道調査特別委員会から報告（冨塚）

本日の定例役員会終了後に第 6 回山岳古道調査特別委員会を開催する。

《審議事項》

(1) 令和 6 年度事業計画について

前記の報告事項にあった「(5)令和 6 年度事業計画」を審議、了承した。

(2) 令和 6 年度支部予算書について

前記の報告事項「(6)令和 6 年度支部予算書」に若干修正する案を審議、了承した。

《その他》

○支部晩餐会＆オークション実施結果（冨塚）

オークションの落札額は 18,100 円（支部晩餐会については後記の「行事記録」参照）。

【第 6 回山岳古道調査特別委員会】

日　時：令和 6 年 1 月 17 日（水）19：00～

場　所：仙台市シルバーセンター5Ｆ会議室

参加者：冨塚委員長、千石長、千葉、冨塚、柴崎、横山、草野、佐藤、遠藤、加藤、鳥山 10 名

千石支部長より「2 年間を費やした古道調査がようやく終了します。後に役員会の皆様に本部提出することの了承をとりたい」と挨拶、さっそく打ち合わせに入った。

(1)各古道チーフからの報告

○栗駒古道（加藤知宏）

若干、文章で加筆、追加した箇所があり、後で最終のテンプレートを送る。

○出羽・仙台街道（冨塚和衛）

「古道を歩く」のテンプレートに、関連する写真番号を入れると親切になる。

○関山街道（遠藤幸寿）

コースに名所・旧跡が少なかったので、写真に苦労した。テンプレートのテーマの中で多少文章を入れ替える。

○二口街道（千石信夫）

テンプレートの各テーマに文字数の制限があり、文章を入れ替える。

○蔵王古道（佐藤昭次郎）

「蔵王古道の会」の史料がメインとなっている。蔵王に何度か行っているので、自分で感じたことは追加した。

この後、冨塚委員長より種々の連絡があり

・完成スタイルは、縦型の 2 列になっている。これは携帯電話の画面に対応するためで、写真はこの意図を考慮してサイズを選ぶ。

・各写真は解像度を良くするため「72 ピクセル」以上。

・各古道のテンプレートは、最終的に本部でチェックする。

→チーフより協力してくれた外部の人に見てもらいたいので最終校正を支部にバックして欲しいと要望がでる。

→本部より最終テンプレートを支部に戻してもらう。

・本部には①テンプレート②写真とキャプション③ＧＰＳ④手書き地図を送る。

(2)各古道のテンプレート、写真キャプションの承認について

本日の報告と説明を受け役員会で承認した。このあと千葉副支部長の締めの挨拶で閉会。

【宮城支部 山行報告】

■8 月に予定した「夏山山行」は、猛暑など諸事情により中止、9 月から山行開始とした。

9 月 山 行

報告者 遠藤幸寿

実施日 9 月 23 日(土・秋分の日)
山 域 月山・姥沢コース
参加者 会員＝遠藤幸寿(ＣＬ)、草野洋一、加藤知宏、石川弘子、支部友＝村上俊郎、一般＝半澤邦広、小原明夫、遠藤久美子、遠藤透 以上 9 名

当日は晴天の中、車 2 台に分乗し(ＪＲ仙台駅西口集合チーム 5 名と東北自動車宮城インター駐車場集合チーム 4 名)、早朝(7：30)仙台を出発した。

東北自動車道(宮城インター)から山形自動車道(月山湖インター)を経て、姥沢駐車場に 9 時 50 分着。入山協力料(車 1 台 1､000 円)を支払って、ほぼ満杯の駐車場(300 台駐車可)に停めることができた。

▲見晴らしの良い尾根を登る

午前 10 時、リフト乗り場へ出発、正面には月山が空高くそびえ立っていた。早速、リフト(リフト券は 1 人往復 1500 円)に乗り、上乗り場に 10 分で到着。トイレを済ませて 10 時 30 分、姥ヶ岳への登山コースに向かう。快晴の中、来客の多さにビックリする。

11 時 15 分、姥ヶ岳に到着。360 度の大展望に、メンバーも他の登山者も感嘆の声を上げる。ここから見える月山は、神社をピークに乗せ、遙か彼方だ。ルート上には点々と登山者が連なって、信仰登山の面影が漂う。ルート上の廃屋跡で昼食となり、各々の持ち場で弁当を広げる。

13 時 30 分、村上さんにテントキーパーを頼んで出発、まもなく頂上稜線に出る。14 時 15 分、快晴無風の頂上神社に着く。みんなで景色を謳歌し、集合写真を撮って下山にかかる。午後になり周りの人たちも下る方たちが多くなる。村上さんと合流の後、朝日連峰を遠望しながら、まだ紅葉には早い芝の草原をリフト乗り場へと向かった。

口元からハミングしそうな快適な山行で、15 時 30 分にはリフトに乗車することができた。16 時に全員無事、駐車場に到着。整理体操後、車の帰仙コースが異なることから現地解散とした。遠藤車(往路復路同じ)は、17 時 50 分、仙台に無事到着、山行を終了した。

▲展望が素晴らしい頂上神社で記念撮影

▲参加者での記念撮影

〈自動車走行コース〉

宮城インターチェンジ→東北自動車道を福島方面へ→村田ジャンクションから山形自動車へ→(山形市を通過し、月山湖・鶴岡方面へ)→月山インターチェンジを下りる→一般道を西川町方面へ2㌔戻り、左折して姥沢駐車場へ(往路・復路同じ)

■10月29日(日)に予定した「第13回親子登山教室(戸神山)」は、参加者が無く中止。その代わりに秋山山行として雁戸山登山に変更したが、悪天候が予想され中止した。

(公益事業)第11回　登山教室

報告者　冨塚和衛

実施日　11月17日(日)

山　域　北泉ヶ岳(1253m)、泉ヶ岳(1172m)

コース　オーエンス泉ヶ岳自然ふれあい館前駐車場～水神～三叉路～北泉ヶ岳～三叉路～泉ヶ岳～(滑降コース)～お別れ峠～自然ふれあい館前駐車場

参加者　会員=冨塚和衛(ＣＬ)、千石信夫、草野洋一、千葉正道、佐藤昭次郎、松元秀平

準会員＝八尾寛、佐藤善武、支部友=鳥田伊志、一般参加＝渡辺きよ子、阿部真美

以上11名

昨年に続き、秋の登山教室を仙台市民に親しまれている北泉ヶ岳・泉ヶ岳をフィールドに実施した。

集合場所のオーエンス泉ヶ岳自然ふれあい館前の駐車場に、参加者11名が全員集合後に自己紹介。続いてリーダーからコース及び休憩時に予定の登山教室について簡単な説明を行った。その後、各自登山支度を整え、先ずは水神を目指して出発した。

夜来の雨に泥濘(ぬかるみ)となった緩やかな登山道を30分程進むと、後ろから“早い!”の声があり、歩を緩めて呼吸を整える。周囲の木々はすっかり葉を落とし冬支度のようだ。

1時間ほど歩いて薄っすらと雪が積もる水神石碑に辿り着く。泉ヶ岳の山名の由来ともなっている石碑の前で記念写真を撮る。

一息入れて、北泉ヶ岳山頂を目指す。樋沢(ひさ)川の源頭部を右岸に渡り、北泉ヶ岳への登りに取り付く。夜来の雨は標高を上げるにつれて雪に変わったようだ。山肌は積もった雪で白さを増していく。泥濘と化した登山道は、雪の下の濡れ落ち葉と相まって歩き難い。挙げ句の果てに風も強くなってきた。ブナの原生林を吹き抜ける風が轟々(ごうごう)と音を立てて吹き抜けていく。

悪条件の中、急坂をゆっくり、ゆっくりと足を運ぶ。泉ヶ岳への分岐点となっている三

▲水神石碑にて

▲雪道となったルートを登っていく

▲北泉ヶ岳山頂にて

叉路までは、水神石碑から 1 時間ほどの行程となった。ここで大休憩を取る。

休憩を利用して、1 回目の「登山教室」を行う。講師は千石支部長。支部長が作成した「低体温症について考える!」と題する資料により、2023 年 10 月 6 日に発生した朝日岳(那須町)での低体温症による遭難事故を題材に、低体温症に係わりのある(A)気象について、(B)ウェアーについて、(C)非常用装備について、(D)行動食について、(E)非常食について、(F)緊急時の対策について等の話があり、寒風が吹きすさぶ中、熱心に耳を傾け聴講した。

三叉路から北泉ヶ岳山頂までは 1 時間ほどの行程だ。ブナ林の中を一旦下り泥濘を過ごしてからは、北泉ヶ岳山頂まではひと踏ん張りだ。登山道に張り出す根っ子に気を付けながら登り詰めていくと、北泉ヶ岳の山頂に辿り着いた。途中、すれ違う人や追い越していく人がいたが、山頂にも数人の登山者がいた。この山は、槇有恒氏が親しみを持って故郷の山と称しているように、仙台市民に愛され続けている山であることが頷ける。

北泉ヶ岳の山頂は風がもろだ。記念写真を撮り、早々に三叉路まで引き返す。雪の上に腰を降ろし昼食を摂る。寒い日の山での昼食にはカップラーメンが欠かせない。体が温まる。食事時間を利用して、2 回目の「登山教室」を開く。講師は八尾寛準会員。「楽に登山するには」と題する資料を基に、登山に適した体の使い方について、(1)エネルギー補給、(2)有酸素運動、(3)速筋と遅筋の使い分けについて、登山時の筋肉生理学的見地からの分かりやすい解説があった。頷きながら聴講する人もあり、大変有意義な登山教室となった。

30 分ほど三叉路で過ごし、泉ヶ岳へと向かう。溶けだした雪の登山道を北泉ヶ岳と泉ヶ岳の鞍部まで下り、泉ヶ岳の頂へと登り返す。13 時過ぎに泉ヶ岳山頂到着。山頂に立つ石碑の前で記念写真を撮る。

下山路は滑降コースに取る。滑降コースは仙台市内小学校 5 年生の泉ヶ岳登山で登る登山道だ。会員の中には、この泉ヶ岳登山の支援ボランティアとして、オーエンス泉ヶ岳ふれあい館に登録している者もいる。

滑降コースは急な下り坂が続く。登山道は

▲陽が照り出した泉ヶ岳山頂にて

根っ子が張り出し、石や岩が重なり合っていて歩き難く危険も伴う。慎重に急場を下る。難所の「大壁」を過ごし、見返り平まで下れば、後は心配ない。ここで一息入れる。

泉ヶ岳自然ふれあい館に着いたのは 15 時。全員無事の下山となった。コースタイムは休憩時間を入れて約 8 時間。昨年の第 10 回登山教室とほぼ同じコースタイムだった。

今年の登山教室は、昨年の教室と比べると、一般参加者が少なかったが、この登山教室を地道に続け回数を重ねていくことは、公益法人としての使命でもある。如いては、この事業が会員増に繋がれば、それに越したことは無い。

初　冬　山　行

報告者　加藤知宏

実施日　12 月 10 日(日)
山　域　霊山(福島県伊達市)
コース　霊山登山口駐車場～日暮岩入口～護摩壇～霊山城跡～(昼食)～東物見岩～日暮岩入口～霊山登山口駐車場
参加者　会員＝加藤知宏(ＣＬ)、千石信夫、冨塚和衛、細川光一、松元秀平
準会員＝渡邉典男、石川弘子、八尾寛
支部友会員＝津田久美子、村上せつ子、川島郁子、一般＝千石裕子　　以上 12 名

2023 年は記録的な高温が続き、12 月の月例山行当日も春を思わせるような陽気の下、12 名の会員等に参加いただき実施した。

当日は、午前 10 時に「りょうぜん紅彩館」の奥にある霊山登山口駐車場に集合、各自自己紹介の後、山行を開始した。

整備された山道を行くと、最初に現れるの

▲国司沢にて

は宝寿岩(ほうじゅいわ)で、慎重に梯子階段を登っていくと展望台のような岩頭となり、眺望が良かった。日暮岩(ひぐらしいわ)入口を過ぎてからは、緩い登りとなる。国司沢、天狗ノ相撲場などの景観を楽しみ、集合写真を撮りつつ歩を進める。途中、地元の登山者とも交流を深めた。

この先の護摩壇入口から本道を外れ、護摩壇へと向かう。護摩壇には大きくえぐられた洞穴などの造形がある岩場で、遠く吾妻連峰などを望むことができるが、当日は霞んで残念ながらハッキリとは見えなかった。

護摩壇を大きく回りこみ、霊山城跡へ向かう。正午前に霊山城跡に到着。一帯は手頃な広場となっており、霊山の案内看板やトイレ、石碑などがある。ここで昼食をとり、メンバー全員で記念撮影をする。そこから 10 分ほど行くと、霊山最高峰である東物見岩に至る。ここからは麓の玉野集落、遠くには蔵王連峰

▲歴史が偲ばれる霊山城跡にて

▲霊山最高峰の東物見岩で記念写真

や鹿狼山(かろうさん)が望める。ここでもメンバー全員で記念撮影をする。

その後、下山を開始した。蟻ノ戸渡りという幅の狭い岩場を通過し、五百羅漢岩や弘法突貫岩、弁天岩、日暮岩などの奇岩を望みながら、予定通りの午後 1 時 40 分に霊山登山口駐車場に到着し、解散した。メンバーの皆さんは元気な様子だった。

今回は落葉後の山行だったので、季節を変えて新緑や紅葉の季節に、また登ってみたいと思う。また霊山は、貞観(じょうがん)元年(859 年)に修験道の霊山寺として開山され、南北朝時代には北畠顕家が霊山城を築いて、激しい戦いの舞台となるなど古い歴史を誇る霊峰であるが、南北朝時代の戦乱により、現在は礎石などを残すのみ。山麓に往時の流れを汲む寺社(霊山寺、霊山神社)があるので、霊山に秘められた歴史を紐解きに時機を見て訪れたいと思う。

▲狭い岩場である蟻の戸渡りを通過する

【行事記録】

■第 36 回日本山岳会全国支部懇談会に参加して(主催：群馬支部)

報告者　冨塚和衛

群馬支部主催による第 36 回となる全国支部懇談会が 2023 年 9 月 23 日(土)、24 日(日)の両日、谷川岳のお膝元である、みなかみ町のホテル「座山みなかみ」(旧水上館)を会場に開催された。前年度は宮崎支部主催による宮崎市青島での開催が計画されていたが、コロナ禍の影響で中止を余儀なくされ、今回の支部懇談会は、2019 年に奥日光の光徳温泉で栃木支部主催以来の実に 4 年ぶりの開催となった。参加者は本部役員をはじめ全国から約 160 人の会員、準会員等が集った。

9 月 23 日(土)の初日は、15 時から受付があり、16 時 30 分から講演会(16：30～17：30)で幕を切った。「今、谷川岳で考える安全登山」と題し、群馬県警谷川岳警備隊長の伊藤武氏(平成 9 年度から通算 18 年間、警備隊で山岳遭難者の救出や遭難防止活動の任務にあたる)が講師を務められた。

以下は講演概要――「管内には日本 100 名山が 5 座(谷川岳、巻機山、平ヶ岳、至仏山、武尊山)、隣県近場に 4 座(燧ヶ岳、日光白根山、赤城山、皇海山)あり、登山者が多数訪れ

▲講師を務めた伊藤武氏

るエリア。群馬県内の山岳遭難発生件数は増加傾向であるも、谷川岳のマチガ沢や一ノ倉沢の遭難事故は減少傾向。危ない場所での事故は起こりづらいが、ヨモヤと言う場所で事故が起き、死亡事故も。バックカントリーでの事故も増加傾向。尾瀬の遭難例ではサンダルやスニーカー履きも。また、断定できないが、ヘッドライト持参も使い方が分からない例もあった。通常は、若手警察官の救助・応急処置訓練をはじめ、消防との協力強化策等行っている。」の話があった。最後に群馬県警山岳遭難対策用ドローンのクラウドファンディングについての説明で幕を閉じた。

講演会終了後、1 時間の自由時間があり、18 時 30 分から恒例の懇親会が開催された。開会宣言後、アトラクションとして勇壮な「三国太鼓」が披露された。

続いて、根井康雄群馬支部長からの「歓迎の言葉」のあと、橋本しおり日本山岳会会長、阿部賢一みなかみ町長よりご挨拶があり、桐生恒治日本山岳会副会長の乾杯のご発声で懇親会は幕を明けた。

▲根井群馬支部長（右は橋本しをり会長）

懇親会では全国の支部から寄せられた日本酒が用意され、飲み比べに挑む兵（つわもの）も現れた。宮城支部から参加した2名の席の真向かいに偶然、元日本山岳会副会長の廣重恒夫さんが座られており、一献傾けさせて頂いた。その折り、廣重さんがチーフを務められている日本山岳会 120 周年記念事業の一つＧＨＴ（グレート・ヒマラヤ・トラバース）についてお話をお聞きすることが出来た。

宴は、日本山岳会支部事業委員会の宮崎紘一委員長による一の〆があり、二の〆を次期開催支部である神奈川支部の込田伸夫支部長が務められ、「三浦アルプス」で開催する旨の話があり幕が下ろされた。

9 月 24 日（日）の 2 日目は、先ずは 2 班に分かれてビュッフェスタイルの朝食を摂る。その後、バスで谷川岳インフォメーション・センターへ移動し、ハイキングを楽しむ。ハイキング・コースは谷川岳インフォメーションから一ノ倉沢出合までの国道 291 号線の往復。コースタイムは約 3 時間。センターを 9 時頃に出発する。谷川岳ロープウェイ駅、谷川岳山岳史料館を過ぎると緩やかな道となる。西黒尾根、厳剛新道の取り付きを左に見て行くとマチガ沢出合に到着。ここで一休み。

▲マチガ沢出合で八尾（左）さんと冨塚さん

マチガ沢から一ノ倉沢出合までは 30 分程。途中、越後の国へと通ずる清水峠道の国道開削時の苔むす石垣が道の山際に見られ、往事を偲ぶことが出来た。

一ノ倉沢出合で大休憩。備え付けの双眼鏡を覗くと、一ノ倉沢を登攀する 2 名の人影が見られた。

▲一ノ倉沢をバックに記念写真

剱岳、穂高岳と並ぶ日本三大岩場のひとつで、“魔の山”と称される幾多のアルピニストの命を奪った谷川岳の東壁、一ノ倉沢は迫力満点だ。切立つ絶壁は、今なおアルピニスト達の憧れの的なのだろう。そんな一ノ倉沢をバックに記念撮影。

30 分程滞在し、帰路についた。途中、電気自動車とすれ違う。電気自動車には数人の観光客が乗っていた。谷川岳インフォメーション・センターには 12 時頃到着。お弁当を渡され、第 36 回の支部懇談会は終了した。

〈参加者〉冨塚和衛、八尾寛

■2023 年度　日本山岳会自然保護全国集会に参加して

報告者　柴崎　徹

（自然保護委員会委員長）

昨年 10 月 21、22 日、4 年ぶりの自然保護全国集会が高尾山で催され、宮城支部から高橋二義さんと私が出席した。会場は高尾山口の駅の真向かいにある「タカオネ」、『人と森とのかかわり』がテーマである。

主催者の開会の挨拶につづいて“森の哲学者”を自認する内山節さんの基調講演を 2 時間ほど伺った。30 年ほど前になるが、仙台の「蕃山 21 の会」の総会に来られて記念講演をされた折、お会いしたことがあったが、当時の若く元気なお姿や言説にかえて、さらなるご経験と思慮を深められた森と人との共生のお話しは重みがあった。

その後、全国 8 支部と本部の報告に加え 5 支部から紙上報告、さらに「高尾の森づくり会」から植生復元事業の詳しい報告があった。

宮城支部からは、ここ数年調査や検討を進めてきた風力発電事業について、「宮城県の山地および丘陵における風力発電事業計画の概要について」と題して、高橋二義さんに発表していただいた。この折あらためて作った資料、20 箇所にわたる事業計画の位置と現況について示した図表は、東北の一つの県においてさえも、激しい風力発電事業に晒されていることを明瞭に示す資料として、出席の皆様に受け止められたようだ。また、支部の一昨年 8 月のアピール文も別添で配布された。

夕方からは、駅舎の一角にあるレストランでイタリア料理をいただきながらの懇親会が催された。その途中、多摩支部の長老・河野悠二さんにつづいて、私にも挨拶の役が回ってきた。私はこの二十数年、ほとんどの全国集会に出席させていただいてきた。そこで学んだことや「木の目・草の芽」で学ばせていただいたことが、山での自然保護への大いなる指針になってきたことを、この席にいらしている嘗（かつ）ての自然保護委員長で山岳会の自然保護の歴史をまとめられた富澤克禮さんへの感謝も込めて披露し、山岳会の歩んできた自然保護の歴史を私たちが如何に学んでいくかが大切であるかを述べ、この席におられた皆さんの大いなる賛同をいただくことになった。その後、会場を「タカオネ」の中庭に移してファイヤーを囲んでの楽しい宴となった。山梨支部差入れの特別なワインも味わった。

翌 22 日はフィールドワーク。高尾駅に出て

小仏峠に向かうバスを日影で降り、小下沢に沿う林道を辿り、ほぼ中流に位置する日本山岳会の「高尾の森作業小屋」に入った。作業小

▲日本山岳会・高尾の森作業小屋（小下沢）

屋といっても立派な山小屋である。ここから数班に分かれて、小下山東面で進められている広葉樹による植生復元事業の現場を見学させていただいた。このあたりは高尾山に続く景信山（727.3m）の北東面にあたり、岩屑地の急斜面である。そこには2019年の台風による崩落地が各所に見られて、よくもこんな場所に植えつづけてきたものだと感心させられるとともに、「高尾の森づくりの会」の皆様の御苦労のほどが偲ばれた。

午後は、小下沢左岸の東京都の植栽地を廻った。鹿の食害防止のための対策が講ぜられている植栽地である。防鹿柵と言えば宮城県では金華山の金網で囲ったブナ幼木対策が挙げられるが、高尾では苗木を食害から保護するために、特別なプラスチックの被覆材が開発され試験されていた。この被覆材は、太陽光を適度に透過させて樹木の生長を促すとともに、食害を徹底的に無くす効果をもたせている。まだ試験段階だが、どんな結果になるか期待される。

▲防鹿対策をした広葉樹植林試験地（都林）

今回の自然保護全国集会は、コロナ明けの4年ぶりの大会であったにもかかわらず、例年と変わりなく、否、ときには例年以上に興味深く有意義なひとときを過ごせた大会であった。支部の参加が少なかったのは残念だが、それを多摩支部の方々と「高尾の森づくりの会」の方々とが大挙して加わり、補ってくれたように思うし、その皆様がさまざまな工夫を凝らして接待してくれていたのだと思う。

困難を押して自然保護活動を継続していくことの大切さを、再び教えていただいた大会として、下野綾子委員長や自然保護委員の皆様の御努力に深く感謝したいと思う。

〈参加者〉柴崎　徹、高橋二義

■令和5年度 宮城支部晩餐会 5年ぶりに開かれる

2023年12月17日（日）、17時30分より令和5年度の宮城支部晩餐会がホテル白萩で5年ぶりに開かれた。千石信夫支部長が「これまでコロナ感染などで自粛してきた晩餐会が、

▲久しぶりの晩餐会で高らかに乾杯

こうして久方ぶりに開催できました。今日は新しく入会された方も参加され、クラブライフを楽しんでください」と開会の挨拶。そのあと出席された方々より自己紹介のスピーチがあった。

各自スピーチの後、1 部として主な年間山行の活動報告に移った。はじめに千葉正道会員が夏のオーストリア・チロル・トレッキングをパワーポイントで報告。終了後、飲食タイムとなり、佐藤昭次郎会員が「久々の晩餐会に新しい会員が集まり、宮城支部を盛り上げていきましょう！」と乾杯、引き続き食べながら飲みながらの報告会となる。

2 番手は八尾寛準会員が令和 5 年を振り返り早池峰、栂海新道縦走、南八ヶ岳、そして 9 月の谷川連峰縦走までを報告。3 番手は渡邉典男準会員が、仙台三高山の会ＯＢと一緒にロールワリン山群にあるドルマカン峰(6332 m)に挑み登頂した遠征を。しんがりは冨塚和衛会員が熊野古道巡拝の旅について報告した。その都度、報告会員への質問も飛びだし、有意義な報告会となった。

▲渡邉会員がヒマラヤ遠征を報告

最後は晩餐会恒例のオークションとなり、出席会員はじめ、都合により欠席した会員が想いの品々を出品、オークションにかけた。掛け声が飛びかって落札された金額は合計 18，100 円となる。尚、今年永年会員となった千石支部長より、顕彰記念のネームタッグが参加者全員にプレゼントされた。

閉会にあたり千葉副支部長が「久しぶりの晩餐会、盛り上がりました。来年に向け体力をつけましょう」と締めの挨拶で終了した。会場の外に出ると初積雪の雪景色に変わり、雪が降りしきる中、足下に気をつけながら散会した。

〈出席者〉千石信夫、千葉正道、冨塚和衛、横山哲、草野洋一、細川光一、佐藤昭次郎、鳥田笑美、冨塚眞味子、鈴田則文、鈴田泰子、加藤知宏、松元秀平、鳥山文蔵、
準会員：渡邉典男、八尾寛、支部友：鳥田伊志、一般：千石裕子　計 18 名

千石支部長、永年会員
おめでとうございます

12 月 2 日(土)に開催された日本山岳会の年次晩餐会において、支部長の千石信夫会員(会員番号:7618)が新永年会員として表彰されました。おめでとうございます。

新 入 会 員 紹 介

宮城支部に平成生まれの若い会員と御夫婦での会員が新しく入会しました。

〇会員　松元　秀平さん（会員番号：17164）

大学を熊本で過ごしたので、雲仙普賢岳をはじめ九重連山、高千穂峰、阿蘇山、開聞岳祖母山、韓国岳など、九州の名峰に登ってきました。仙台に着任してからは八甲田山や磐梯山、蔵王などに登ったとのこと。これからは会員の皆様と一緒に、数多い東北の山々に踏跡を残してください。

〇会員　鈴田　則文さん

これまで剱岳をはじめ立山、南北の八ヶ岳など中部山岳地帯の山々を登ってきました。現在、ＮＰＯ法人「森の学校」の代表理事を務

めており、支部の公益事業である登山教室などでの活躍を期待します。

〇会員　鈴田　泰子さん

地元の国立大学を卒業し、現在、地元の私立大学に勤めております。これまで那須岳、磐梯山、北八ヶ岳、立山などに登山してきました。2 組目の夫婦会員としてクラブライフを楽しんでください。

【今後の行事予定】

☆2 月 4 日(日)　厳冬期山行
　南蔵王 烏帽子スキー場から後烏帽子岳
　(申込み締め切り：1 月 30 日　千石まで)
☆2 月 22 日(木)
　定例役員会(仙台シルバーセンター)
☆3 月 9(土)～10 日(日)　日本山岳会第 13 回
登山教室指導者養成講習会:長野県小諸市
☆3 月 20 日(水)
　定例役員会(仙台シルバーセンター)
☆3 月　早春山行(場所・日程未定)
☆4 月下旬　令和 6 年度宮城支部総会
　(仙台シルバーセンター・日程未定)
☆5 月　春山山行(場所・日程未定)
☆5 月中旬　定例役員会(会場・日程未定)
☆5 月 25 日(土)・26 日(日)
第 37 回全国支部懇談会(主催:神奈川支部)
　～春の湘南平・三浦アルプス～

諸事情により日程、場所が変更する場合があります。何卒ご了承ください。

会員の皆様へ

日本山岳会 会報「山」の電子配布について

昨年秋、会報「山」10 月号より印刷物と平行し、支部会員の皆様にメールでも送っております。その理由は日本山岳会全体の財政支出を削減する上で、毎月郵送している会報「山」の送料と印刷代を省き、電子媒体での配布に切り替えることを検討しているからです。

現在、その試行期間のため従来通り本部から紙での配付は継続されておりますが、この件に関してご意見がありましたら宮城支部事務局までお寄せください。

事務局：冨塚和衛　090－2790－3771

『宮城山岳』第 28 号の原稿募集

今年 5 月頃に発行する機関誌『宮城山岳』は、会員皆様の投稿による「紀行・随筆・エッセー」コーナーがあります。これまでの山行記録はじめ青春時代の思い出の山行や心のふるさと山など、下記の要領で執筆していただきますようお願い申し上げます。

記

〇文字数：1500～3000 字程度(横書き)
〇関連写真はキャプションを付ける
〇原稿締め切り：3 月末日
〇送付先　yrdbf275@yahoo.co.jp
〇問合せ先　電話 256－1459

皆様からのご投稿をお待ちします。

会報・編集出版委員会　鳥山文蔵

【編　集　後　記】

東北楽天ゴールデンイーグルスの今季のチームスローガンが「いただき！」と決まった。初采配する今江敏晃監督が大切にする「頂点」という言葉から、1 文字を取ったとのこと。

山に登る私たちにとって「頂点」は「頂上」。会員の皆様におかれましてはこの 1 年、四季折々、数多くの“頂上”に立って欲しいと願うばかりです。楽天には日本一の“頂き”に。

会報・編集出版委員長　鳥山文蔵

宮城山岳通信　第 31 号

発　行　　公益社団法人 日本山岳会宮城支部
発行日　　2024 年 1 月 22 日
発行人　　千石信夫
会報・編集出版委員会　　鳥山文蔵、千石信夫、冨塚和衛、三宅　泰
事務局　　〒983－0821　仙台市宮城野区岩切字畑中 9－12（冨塚宅）
　　連絡先　ＴＥＬ　090－2790－3771